

質問紙調査から見える神石小児童

校長 藤井 和彦

立春を過ぎたとはいえ、今冬第2波の寒波到来の影響で、スクールバスの運行困難により、先週末は休校となりました。春の訪れはもう少し先ようです。とはいえ、先日6年生の中学校入学説明会が行われましたし、今週は新入学児童説明会を行います。新しい年度はすぐそこまで迫ってきました。

神石高原町ではすべての小中学校においてこの時期、学力調査と4年生以上の児童は学習及び生活に係る問いに自己評価を回答する「質問紙調査」を実施しています。

「質問紙調査」の全17項目のすべてにおいて、神石小学校の高学年児童は町平均を上回る肯定的な回答（自己評価）をしています。例えば、「学校は楽しいです」本校児童は、95.5%（町平均91.9%）、「将来の夢を持っています」100%（92.5%）、「自分には良いところがあります」95.5%（87.9%）、「1カ月に何冊本を読みますか」（月に6冊以上読む児童）90.9%（57.8%）、「次の日の学習に向け予習をしています」77.3%（67.6%）、「外国人とコミュニケーションを図れるようになりたい」100%（86.7%）、「総合的な学習の時間は役に立つ」100%（91.3%）、「発表するときは理由をつけていう」95.5%（91.3%）などと回答しています。低学年児童への本質問調査はありませんが、日頃の学習・生活の様子からは、同様の結果が得られるのではないかと思います。

この結果は児童の一側面にしか過ぎないかもしれませんが、読書活動等、家庭教育と学校教育との連携によって、自己肯定感を持ち、友達を大切に、協働の精神で意欲的に学び合おうとする神石小学校児童の姿を反映しているように思います。

これからも、自分のいいところを伸ばし、仲間とともに高みを目指して成長し続けてほしいものです。